

課題 Debate in fours, 二 against two, for four minutes. Your side is decided by lot, not by what you believe.

思考·判断·表现

話題 本番は当日ひきます（練習はどれを使ってもかまいません）

A	Should our school allow smartphones during breaks?	休み時間のスマホを許すべきか
B	Is it better to study for tests alone or with friends?	テスト勉強はひとりか友達とか
C	Should club activities be limited to four days a week?	部活は週4日までにすべきか
D	Should students decide their own seats in class?	席は生徒が決めてよいか

返しの型 台本ではなく部品。この4つが入れば会話は続きます

立論	We think ... for two reasons. First, ... Second, ...
具体	For example, in our school, ... / Last year, we ...
反論	You said ..., but ... / That may be true, but ...
まとめ	That is why we still think ...

1. 同じ側の2人で理由を2つ書き出す（英語は3語でよい・メモは日本語で構いません）。
2. 相手の理由を予想して、**反論を1つだけ**用意する。全部に返そうとすると、1つも返せません。
3. 本番は直前に立場をくじて。終わったら立場を入れかえてもう1試合—さっき相手が使った理由を、今度は自分が使えます。

1回目の相手	使えそうだった表現（ ）
2回目の相手	次に使いたい表現（ ）

先生はここを見ます 加減式10点（本番の直前に、この5行を読んでから前に出る）

理由を2つ言えている	+3	思判表
それぞれの理由に具体が1つある	+2	思判表
相手の理由に触れて反論している (You said ..., but ... の形)	+3	思判表
くじで決まった側で話しきっている	+1	思判表
5秒以上の沈黙なく4分もたせている	+1	知技

回し方 3つのうちどれかを選ぶ（クラスの人数と持ち時間で決める）

全班が同時に対戦 半コマ	10班（4人）＝5～10試合が同時に走る。作戦8分＋第1試合4分＋立場を入れかえて第2試合4分＝約16分。ふだんの授業はこの形で回す（教師は机間で聞く）
評価する回（教卓前） 1コマ×2回	同時対戦では40人を同時には見られない。教卓前で1試合ずつ、2班（8人）だけ进行评估する。1試合4分×5回＝20分で20人。残りは待機中の仕事（下）。学期に1回だけこの形にする
タブレット録音 10分＋採点40分	全班が同時に録音（8分）。採点は放課後で、1試合4分×10班＝40分かかる。評定に入れる回だけに使う

待っている生徒の仕事 ここが空くと、教室が崩れます

- ・対戦していない2人はジャッジ。「相手の理由に触れた回数」を正の字で数える（勝敗ではなく回数を数える—これで聞くことに仕事が生まれます）
- ・英語で言えずに止まったところを1つ日本語でメモし、試合後に全体へ出す（次の授業の表現バンクになります）
- ・自分たちの番に使う反論を、聞きながら1つ書き足す

評価 配点は生徒面（表）に刷ってあります＝規準を隠さない

その場は○△×だけを打ちます（○＝満点・△＝半分・×＝0）。勝敗の欄はありません—勝ち負けを決めた瞬間、勝つのは英語ではなく声の大きい生徒になります。点は「言えたこと」に付き、勝ち負けには付きません。

記録 記録シート（班ごと・その場は○△×だけ／勝敗欄は置かない）

氏名（座席順）	理由2つ	具体	反論	立場	4分	メモ

話題の漏れ対策

- ・論題は3つ用意し、班ごとに配る紙を変える。1つだと、あとの班ほど有利になります。
- ・立場のくじは試合の直前にひく。前日に分かると、片側だけ準備してきます（それでは「与えられた側で理由を立てる」訓練になりません）。
- ・評価に使う回は、同じ論題を翌日以降のクラスで使わない。

よくある失敗

日本語の議論になる	「英語で言えないことは、言わなくていい」を先に宣言します。理由は2つまでと決めておくと、言える範囲に収まります。
声の大きい生徒が勝つ	このキットは勝敗をつけません。それでも盛り上がるのは、立場がくじで決まるからです（勝ち負けの代わりに「相手の理由に触れた回数」を数えます）。
反論が「私はこう思う」で終わる	You said ..., but ... の形を必須にします。相手のことばを1つ引用させると、そこで初めて聞くことが仕事になります。
論題が「どちらでもいい」になる	論題は賛否が割れるかではなく、両側に、高校生が知っている具体が1つずつあるかで選びます。上の4つはその条件で選んであります。

テストに入れる

評定に入れるならこの4分で10点（上の配点そのまま）。観点は反論までを含めて思考・判断・表現で、沈黙の1点だけが知識・技能です。定期テストの筆記に移すなら、同じ論題で「反対側の理由を1つ書き、それに反論しなさい（40語）」—ディベートで練習した形が、そのまま自由英作の設問になります。

